

# 第10号 全国自立援助ホーム協議会 たより

編集者  
新井 秀親 (夢舞台)  
松木 良介 (経堂 憩いの家)  
大橋 達也 (吾が家)  
野原 知子 (マルコの家)  
発行日：平成30年3月26日

## この号の内容

1～4 ページ

ホーム長紹介 特集

5 ページ

全国自立援助ホーム  
協議会仙台大会 報告

6・7 ページ

第18回  
スタッフ研修会報告

8 ページ

広報委員会より

## \*ホーム長紹介 特集\*

今回は4人のホーム長をご紹介します！



### ミカエラホーム (東京都) 鈴木 智子

有期雇用だった前職が、残り2日となった夕方。  
仕事を終えて先輩職員と駅までの道を歩いていた。

「次の仕事は決まったの？」

「それが落ちちゃって・・・。」

「まだ決まってないんですよ。」

この1ヶ月前にミカエラホームの面接を受け、結果は  
前ホーム長のシスター長濱から電話でいただいていた。

良い返事ではなかったが、少しでも現場を体験してみたいと思った私は、  
可能であれば3月にボランティアをさせて欲しいと申し出た。

シスターは快諾してくださった。ところが3月になっても仕事の後始末  
に追われ、ボランティアには行けずにいた。しかも、あと2日で失業  
の身。シングルマザーで2人の子持ちには深刻この上ない状況だった  
が、いつものごとく能天気な私は、この際2週間ほどゆっくりしてから  
就活に取り組もうと暢気に考えていた。そんな話をしながら歩いている  
と電話が鳴った。シスター長濱からだった。

「あなた、ボランティアに来てくださると言っていたのに・・・。」

「申し訳ありません！仕事が思いのほか忙しくて・・・。」

「4月からは来てくださらないの？」

「え!?4月からですか!?!」

「そう、こちらで働いてくださらないの？」

「私、落ちたんじゃないんですか？」

「違うわ、採用よ。」

「不採用だとばかり思っていました！」

2週間の休暇は消えた。

傍で聞いていた先輩は大爆笑。会うと今でもいい酒の肴だ。

私の理解力が足りなかったのか、シスター長濱の伝え方に問題があった  
のか、はさておき、こんな風にゆるい感じで私の自立援助ホーム人生  
は始まった。早いものでそれも8年が過ぎようとしている。始まりは  
ゆるいが、仕事はゆるくなかった。しんどいことや辛いこともたくさん  
あったし、自分の無力さや無能さに打ちのめされそうな時もある。

でも、なぜか最高に楽しい仕事だと思っている。残念ながら文字数の  
関係で「なぜか」までは書くことができないので、いつかどこかで  
お会いした折にゆっくりお酒でも呑みながら・・・。

## ホーム長 紹介

「ミカエラホーム」

---

ホーム長 紹介  
「わだちの家」

---



### わだちの家 (和歌山県) 川口 充紀

全国の自立援助ホームの皆様、こんにちは。平成20年に和歌山県初の自立援助ホームとして、わだちの家を開設してこの春で10周年を迎えることになりました。ホーム長で法人の理事も兼ねている川口です。

私は地元の大学で教育学部を卒業しましたが、教師の道は選ばずに一般企業に約20年勤務、縁あって児童養護施設にボランティアという形で関わるようになり、そのことが契機となって自立援助ホームを営むこととなりましたが、児童福祉を専門に学んできたわけではないので、当初は戸惑うことも多かったです。しかも、なかなか地元の理解が得られず、ホームを引っ越すことになったり、子どもシェルターの開設に関わった経緯から、2箇所目の自立援助ホームつぼみの家(女子ホーム)も立ち上げることになり、雇用する職員が増えた分だけ責任も重くなりました。

初めの頃は試行錯誤の連続でしたが、最近はややぐ、子どもの支援に一貫性が出てきて、ぶれずに対応できるようになって来ました。とはいえ、つつい感情的な側面を抑えきれないところもあって、まだまだだなあと反省したりしています。

支援をするうえで大切にしているのは、支援者側の価値観を押し付けるのではなく、当事者である子どもが、自分の人生の主人公として、良くも悪くも自ら決断し、その結果を受容することです。今はやりの「自己責任」という言葉は好きではありませんが、挽回可能な失敗体験は人を成長させるものです。私たち職員は、子どものそばにただ寄り添うだけでなく、よく見つけて、日々訪れる成長のチャンスに子ども達が上手く向き合えるよう、また、乗り越えがたい失敗をさせないよう絶妙のアシストもこなせるように、アンテナを張り巡らせなくてはなりません。気苦労は多く、報われることも少ない職場ですが、退居した元子ども達が、ごくたまに、元気に暮らしている声を届けてくれることもあり、そんなときには、よし頑張ろうとも思うのです。

ホーム長 紹介  
「たいむ」



### たいむ (新潟市) 町屋 瑠美子

今、4人の入居児童と5人の大人が交代で暮らしている。開設4年目位から就労率が上がり、全員就労が継続している。早朝出勤の児童が増え、弁当の数も増えた。スタッフが全面的に心を込めて手作りする弁当なので、夜には空の弁当箱がそれぞれきれいに洗われている。必ずきゅうりの漬物が欲しいAさん。焼きうどんのリクエストが多いYさん。オムライスおにぎりもプラスしてというMさん。甘い卵焼きが好きな子、しょっぱいのが好きな子等々。要望に応えるためには、ハイレベルな技量が要求される。

朝食の用意も並行しなければならないわけで、スタッフは難しい時間配分との対峙が必須。それでも知恵を絞って美味しいサンドウィッチを手早く完成させ、出勤前の戦闘モードの子ども達にも怖気づかず、雪国の凍てつく寒さを吹き飛ばす程の熱気がある。

子ども達の笑顔と、スタッフの笑顔が良い感じで重なって、心地よい空気が醸し出されるように、そのための配慮をしているつもりだ。子ども達が望んでいる事、スタッフが気にかけている事、ひとつひとつを大切にしていける限り対応している。

程よい距離をはかりながら相手の必要とする時間を尊重し、待つ。時には立場をふまえて言うべきことは言う。異なる意見交換をしても、あとくされなく笑い合う。その姿を子ども達に見せる事で、これまで見た事がなかった大人達の温和な関係性を間近で体験してもらえるのだ。

同じ家に暮らす子ども達が聴いている、見ているという意識を常に持って、スタッフと共に働く事。うまくいかない事も失敗もあり、それをカバーし合う働く仲間の大切さを実感してもらえるのだ。

私達は子ども達にとって、教材であり、モデルであり保護者であり、おせっかいな他人でもある。長い人生の中では、ほんの短い時間だけれど、縁あってこの時空を共にできたのだから、みんなからたくさん学びたいし、分かち合いたいと願っている。

貴重な休日は、お天気なら半日で帰れる山歩きとハーブ栽培、冬の間は映画か手紙を書く事が私のリフレッシュメニューです。

---

 ホーム長 紹介  
 「ぐんま風の家」
 

---



### ぐんま風の家（群馬県） 千木良 和江

ぐんま風の家は設立から13年目を迎え、平成26年の6月から私がホーム長をさせていただいております。

定員6名で女子のみのホームです。そして青少年の自立を支える群馬の会の理事の方と5人のスタッフに支えられ今まで来られております。

昨年、児童福祉法が改正になり、就学児童に限り22歳の年度末まで自立援助ホームで生活できるようになりました。そのことから1人の子どもは高2の頃から、進学を強く希望していて奨学金について調べ、本当に周りの皆様にお世話になり短大へ進学することが出来ました。また一つ年下の子どもも、後に続けたいと4月からは東京の専門学校へ通うことが決まりました。声優になりたい！とても大きな夢で達成できるか判りません。途中でくじけてしまうかもしれません。でも、諦めずに目標に向かって努力することは素晴らしいことだと思います。本当にやる気のある子どもには良いチャンスが与えられたのではないかと感じました。

毎日の生活の中で、唯一夕食の時間に一人一人の子どもと言葉を交わす事ができていますが、完全に理解してあげられるわけではありません。残念なことにせっかく短大に進んだ子どもが前期で退学してしまいました。協力して下さった方々の説得も通じませんでした。皆で一生懸命説得したけれど掌を返したように簡単に辞めてしまったのです。一人の子どもの人生、大人がこうしなさい、というのではなく自分で決めさせる事が大事だと思いますが、もっと子どもの特性や日々の生活態度を見て、就職の道を進めた方が良かったのではないかと感じています。そして、子どもの将来の道の選択の難しさを痛感しているところです。

ただ、今私が一番望んでいることは、どんな環境で育ってきても、自分が自分の足で立った時、幸せだなーと感じられる人になってほしいということです。どうぞ、皆様のご指導、ご鞭撻をいただけますよう心からお願い申し上げます。

今回は4人のホーム長に、どんな経緯で代表となったのか、どんな想いで利用者と向き合っておられるかについて綴っていただきました。実際に会う機会は限られておりますが、遠い地でもご自分と同じように奮闘している同志の存在を少しでも身近に感じていただけたら幸いです。研修会等でお会いになった際は、是非、非公開の部分についても深く語り合ってください。

次回のホーム長紹介は、あなた！かもしれません。

立候補も大歓迎です。よろしくお願ひいたします。

広報委員 野原

## 第 24 回 全国自立援助ホーム協議会 仙台大会

これからの自立援助ホームのあり方を語る。

～日々の暮らしの中にある若者の未来～

日時：平成 29 年 10 月 19 日（木）～10 月 20 日（金）

場所：仙台サンプラザ

日程：1 日目

- ・行政説明（厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課 課長補佐 田野 剛氏）
- ・基調講演「私の歩んできた道から自立支援を考える」

東北福祉大学 特任教授 草間 吉夫氏

- ・分科会

- A 「新たな制度『就学者・就労者自立支援事業』の理解とホーム運営に関する Q & A」
- B 「今、再び 自立援助ホームの現状に迫る＝施策につなぐ現状の整理をしてみよう＝」
- C 「関係機関から見た自立援助ホームの役割や期待について」
- D 「現場のスタッフが子どもたちと向き合う姿勢とは」
- E 「就労前支援～生い立ちの整理と障害特性の自己理解を促す支援とは」

- ・交流会

2 日目

- ・シンポジウム「ホームの暮らしの中で将来を紡いでいくこととは」

コーディネーター：東北福祉大学 特任教授 草間 吉夫氏

シンポジスト：ふくろうの家 生活支援員 高橋 一正氏

ピアホーム ホーム長 山澤由美子氏

カリヨンタやけ荘 ホーム長 小久保志津子氏

- ・給付型奨学金について
- ・閉会式

### 自立援助予算拡充訴え

ホーム協議会 仙台で全国集会

児童養護施設を出た15、19歳の若者が共同生活を送りながら自立を目指す「自立援助ホーム」の全国集会在10月19、20の両日、仙台

市宮城野区の仙台サンプラザであった。

東北での開催は初めて



基調講演する草間特任教授

で、全国自立援助ホーム協議会（東京）が主催し、全国から運営者ら約220人が参加した。

19日は児童養護施設で育った前茨城県高萩市長の草間吉夫・東北福祉大特任教授が基調講演。「家庭に問題を抱えた子どもを社会に出るまで援助しなければならぬが、現状では施設もスタッフも足りない」と予算の拡充を訴えた。

五つの分科会では自立援助ホームの課題を話し合った。20日は「ホームの暮らしの中で将来を紡いでいくこととは」と題してシンポジウムを行った。

2017年11月3日付  
河北新報に掲載されました。



## 「第 18 回 全国自立援助ホーム協議会 スタッフ研修に参加して」

自立援助ホームようせい（秋田県） 亀山 淳子

---

第 18 回  
全国自立援助  
ホーム協議会  
スタッフ研修会  
報告

---

2月19日から20日にかけて全国自立援助ホーム協議会スタッフ研修に参加しました。3ホームのホーム長から現場でのお話を聞くことが出来ました。

研修に参加して児童養護施設と自立援助ホームの違いを感じる事が出来ました。児童養護施設からようせいへ来る利用者が多いこともあり、児童養護施設の延長のような「日課に沿った生活」「～をしなければならない」が当たり前のような生活になっています。そのため、児童養護施設から来た子は普通のこと、家庭から来た子は窮屈で問題行動が多くありました。この差は家庭から来た子だからと思っていました。それは枠にはめ込んでいたためだと、気づくことが出来ました。本当の支援は枠からはみ出た時にすることなのだというお話を聞き、見守ること、受け止めることの大切さがよくわかりました。また、今までどうしても理解できない利用者の言葉や行動は自分のほかりで見ていたからだと思います。そして理解できない為に最後まで話を聞くことができていませんでした。話すことの保障と聴く力について、「相手の器に応じて人は心を開く」そのために聴く力が大切である。人の話を聴くことは社会人としてのマナーであるというお話は胸に刺さるものがありました。話すことの保障をこれから実践していきたいと思えます。

また、子どもは「大人の言うことが違う」とよく言いますが、価値観の違いがあるので当たり前のこと、自立援助ホームの子どもたちはこれから社会に出るので社会にでたらよくあることだと言われ、なるほどと思えます。ようせいスタッフは30代、50代、60代、70代と幅広い年齢層です。利用者はそれぞれのスタッフに合わせて過ごすことが出来ています。日頃の生活から学ぶことができていて、幅広い年齢層はスタッフ間の連携の難しさはありますが、利用者にとっては良いことだと感じました。

2日目の「社会的養護自立支援事業と自立援助ホーム」では、アフターケア事業と社会的養護自立支援事業の違いや、難しさなど詳しく説明していただきありがとうございました。

初めて自立援助ホーム研修会へ参加はとても緊張しましたが、懇親会では各ホームの地域ならではの違いや本音トークを聞くことが出来、とても充実した2日間を過ごすことができました。言葉の壁、雪の壁を越え参加させていただきありがとうございました。

## 自立援助ホーム富原寮（島根県） 西林 学

---

第 18 回  
全国自立援助  
ホーム協議会  
スタッフ研修会  
報告

---

2月19日から2日間、名古屋市で開催されたスタッフ研修に参加させていただきました。「青少年とのかかわりとスタッフ間の連携について」～さまざまな葛藤と想いの中で大切にしたいこと～をテーマにシンポジウムが行なわれました。

入居者との生活の中では楽しいことばかりではなく、もう無理なのか  
な・・・と考えたり、辛い想いをしながら関わっていることがあると思いま  
す。シンポジストのびつつ・ゆにと 廣田敬史氏、デンマーク牧場こどもの家  
松田正幸氏、つばさ 大野朋美氏のお話をお聞きしたり、グループに分かれて、  
日々大切にしていること、感じていることや思っていることを話すことで違う  
視点からの意見を聞くことができたり改善できるポイントのヒントが見つかった  
りしたかもしれません。それぞれのホームのお話をお聞きすると取り入れて  
みようと思える活動をされていたり、悩みを話してアドバイスをしたりされたり、  
有意義な機会となりました。

2日目は、わだちの家 川口充紀氏の講義「社会的養護自立支援事業と自立援助  
ホームアフターケアの現状と課題」があり、事業についての実施状況や活動  
を解りやすくお話して頂きました。課題や今後の展望についてもお話して  
頂き、これからの取り組みにあたって参考になりました。

研修会ではプログラム以外でも懇親会での交流もとても有意義だと感じてい  
ます。普段話す機会が無くても同じホームスタッフという立場から、入居者との  
関わりでの悩みや対応の仕方、困難ケースの対処法など色々な意見を聞くこ  
とができます。自分の立ち位置を見つめなおし、少年たちに向き合い支援に繋  
げて頑張っていこうと思います。

今回の研修に参加させていただきありがとうございました。

---

広報委員会より

---

### 第 11 回 全国自立援助ホーム長研修会・総会 開催について

月日：2018 年 4 月 23 日（月）～24 日（火）

1 日目：全国自立援助ホーム ホーム長研修会

2 日目：全国自立援助ホーム協議会 総会

場所：東京ビッグサイト 605 研修室

申込み期限：4 月 10 日

（申込み方法については 3 月 5 日に事務局から各ホームに発信済み）

\*この研修会は「処遇改善費 V」の対象研修となっております。  
昨年度までのホーム長研修は暫定的了承ですので、今回の研修不参加の場合  
「処遇改善費 V」の要件を満たせなくなる可能性がございます\*

### お詫びと訂正

前号（協議会たより 9 号）の 3 ページ「ブロック化について」の日本地図によるブロック分けの中で、長野県が南関東ブロックと記載されておりましたが、正しくは北陸・東海ブロックとなります。  
お詫びして訂正させていただきます。

### 【編集後記】

恒例の春のホーム長研修会が近づいて来ました。社会的養護を担う施設長の資格要件には、その重責を担うため、規定にある研修を受ける必要があります。自立援助ホームのホーム長にも研修の義務化が明記されました。自立援助ホームにおいてもホーム長の質が問われることになりその質の向上を図らなければならないことは、言うまでもありません。その内容は、ホームの経営管理、職員のメンタルヘルス、スーパーバイズ・・・。

管理者にとってはどれをとっても大事な内容ではありますがホーム長にとって義務ではなく、様々な知識や経験に驕らず自分自身を振り返り、日々の暮らしの中で何を大切にすべきか、常に問い続けることを忘れたくないものです。

広報委員長 新井 秀親